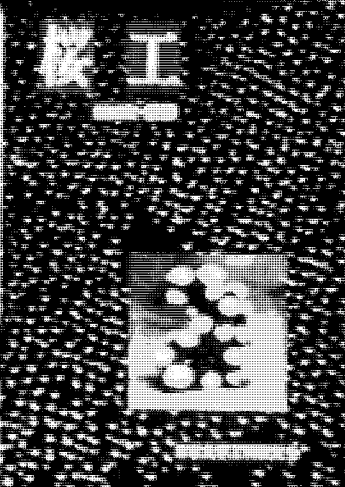
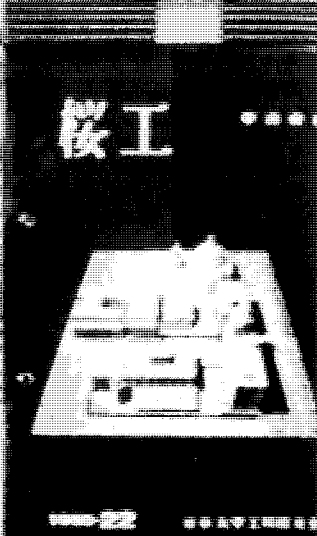
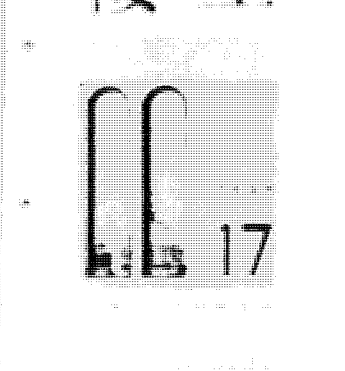
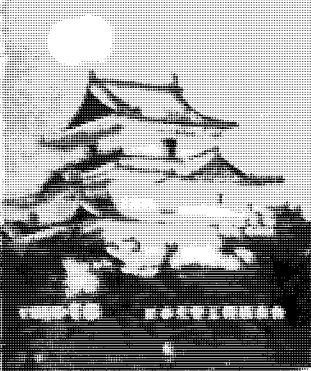


日本大学工科校友会

桜

工



1968-50



### 若きエンジニア

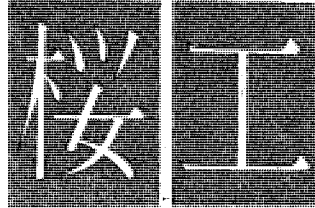


堀内敬三 作詞作曲

- 1 昭渙の日出づる国こそわが祖国  
其の名をば担いて聳ゆわが母校  
伸びゆく日本の力は茲に  
地を拓き行く者若きエンジニア
- 2 青春に夢あり宇宙に真理あり  
現実と理想を結ぶもの我等  
科学の力と不屈の意志を  
武器として進まん若きエンジニア

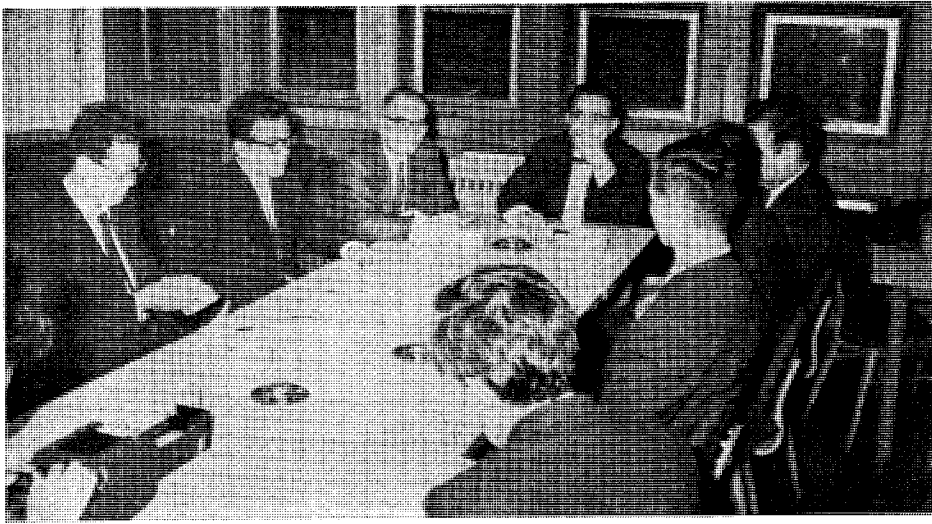
### 日本大学の目的 および使命

1. 日本大学は、日本精神にもとづき、道統をたつとび、憲章にしたがい、自主創造の気風をやしない、文化の進展をはかり、世界の平和と人類の福祉とに寄与することを目的とする。
2. 日本大学は、広く世界に知識をもとめて、深遠な学術を研究し、心身ともに健全な文化人を育成することを使命とする。



日本大学  
工科技友会誌  
1968  
VoL. 15  
No. 50

- 桜工、50号発刊にあたり／齋藤謙次…………… 5
- 桜工創刊50号を迎えて／木田保太郎…………… 5
- 座談会 桜工の過去と将来、…………… 6  
下青木秀吉，篠本勝美，安藤三郎，青木顕一郎，黒沢喜久雄，三浦智徳，両角豊志，杉村俊一  
(司会) 名取康  
桜工の性格と使命／前むきの姿勢が必要／原稿を集めるのに一苦勞／学生は意外に読んでくれない／もっと学生との接触を／固い論文はお断わり／これからの編集委員のあり方／桜工の内容と方針／グラビアで内容が一層充実／完成された形式を生かす／積極的に他大学との交換も／現実を反映した編集を
- 世界に働く婦人技術者科学者の現状……………14  
山田 翠
- 技術者の信念……………渡辺 寛治…17
- 創刊当時桜工のあれこれ……………亀井幸次郎…23
- 母校と校友会誌に思う……………下青木秀吉…24
- 42年度の学術講演会ひろく……………25
- 理工，生産，工の3学部長並びに短期大学部工科長就任祝賀会……………27
- 部会だより  
土木・建築 (29) 電気・機械 (30) 化学・薬学 (31) 工経・生産 (32) 数学・物理 (33)
- 学位授与された工学博士 (34)
- 支部だより (34)
- 会合だより (34)
- 学友短信 (35)
- グラビア 歴代工科技友会長  
昭和42年度工学祭  
理工，生産，工各部長並びに短大科長就任祝賀会
- 表紙 創刊以来各号の表紙



## “桜工の過去と将来”

### ◇ 出席者 ◇

誌会誌委員長 工科校友会	司会	名 取 康	会 誌 委 員	両 角 豊 志
会 誌 委 員		下青木 秀 吉	”	黒 沢 喜久雄
”		篠 本 勝 美	”	三 浦 智 徳
”		安 藤 三 郎		(順 不 同)
”		青 木 顕一郎	事 務 局	杉 村 俊 一

### ◆桜工の性格と使命

**司会** きょうは、お忙しいところどうもありがとうございました。「桜工」の第50号記念ということで座談会を開催することになりました。

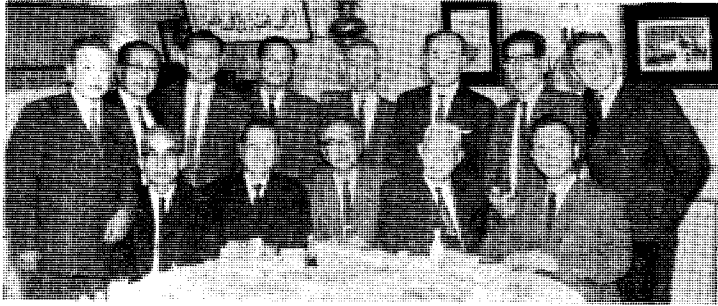
「桜工」が、校友会の機関誌として10何年にわたって続けられたということは非常に重要なことだと思います。大体、こういった機関誌は3号あたりでシリ切れになるのが多いようですが、とにもかくにも続けてきたということは非常に意義があるのではないかと存じます。

内容につきましては、いろいろ、是非論があるかと思いますが、編集に携わった歴代の委員の方々は大へんど苦労なさったのではないかと思います。

す。工科校友会としては非常に大きな事業の一つでもあります。散在している校友の方々の、一つの灯といえ大げさですが、その役割も果たしてきたということで、きょうは過去を振り返って、また、将来どういうふうにしていくかというようなことを皆さまと一緒に考えてみたいと存じます。

では、古くからご関係の下青木さんをお願いいたします。

**下青木** 「桜工」が創刊されましたのは、昭和30年1月なんです、校友会が発足し、2、3年を経て会の機関誌を出そうということで、当時の理事さんがいろいろと努力したのですが、なかなか発刊まで参りませんで、やっと7年目に創刊号を発刊できたのです。



昭九会第5回総会

松建設工業) 徳田城 (藤沢市役所) 安藤賢一 (佐世保市東京事務所) 川崎忠正の諸氏。

うけましたが、その時お集りくださった先輩各位のものです。つつしんで感謝の意を表し、ご披露いたします。

ワンゲル沖縄訪問

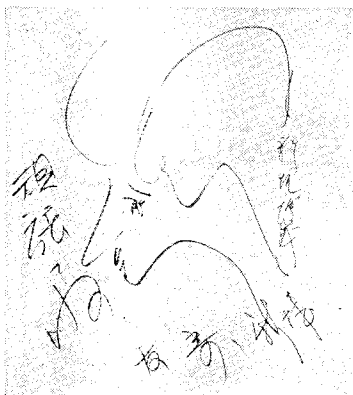
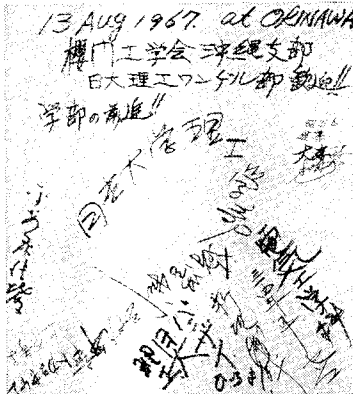
ワンダーフォーゲル顧問

滝戸 道夫

昨年夏私たち日本大学理工学部ワンダーフォーゲル部は15日間にわたり、沖縄の各地において夏期合宿を行った。この間身元引受人をお願いした平安座憲馨氏をはじめ校友の方がたに、ひとかたならぬお世話になり、無事目的をたつすることができた。

この色紙は8月13日夜理工学部出身の校友から、厚いおもてなしをお

学友 短信



■会誌委員/委員長名取康(化学)/土木・下青木秀吉(副委員長), 篠本勝美/健算・安楽三郎, 井出好昭/機械・青木顕一郎・両角豊志/電気・篠原博(副委員長), 高橋信夫/化学・大塚喜作, 黒沢喜久雄/工経・三浦智徳/薬学・山内盛, 戸塚淳逸

■昭和43年2月1日印刷/10日発行

■編集兼発行人/高木政司

■発行/日本大学工科校友会(東京都千代田区神田駿河台1の8/電話東京293-3251内線206/振替・東京162710)

■印刷/本文・鉄鋼新聞社印刷部, グラビア・和喜グラビア